

ワシントン大学短期英語プログラム報告書

函館校 人間地域科学課程 地域創生専攻 1年

八鍬 怜太郎

(1) プログラムで受講した授業に対する印象

・ 大学での授業について

大学での授業は各クラス10～15人程度の人数で行われました。クラスは初日のオリエンテーション後にリスニングとスピーキングのテストを受け、レベルに応じて分けられました。それぞれのクラスによって授業内容は異なりますが、私のクラスでは話す事に重点が置かれていたように感じます。生活の中の様々な場面に応じた会話表現を学んだり、先生が提供する話題に対し各々の意見を述べ議論したりしました。その他にも街に出てインタビューするといったフィールドワークの日もありました。最後には授業のまとめとして原稿を使用せず、3週間の滞在の中で感じた文化の違いやアメリカという国に対する印象、またその変化などをテーマに1人5分間のスピーチを行いました。

私のクラスの先生は明るくユーモアに富んでいて、毎日楽しく授業を進めてくれました。しかし、そういった雰囲気の中にも常に自らの意見を持ち、それを主張することを求められました。そういった環境での生活を通して、ただ英文を声に出して読むこととは違う、伝える事の難しさを痛感しながらも、人前で自分を主張することや英語を話すこと自体に対する抵抗は小さくなったように思います。

・ 課外活動

週に2回行われる課外活動を通して、シアトルについて知ることができました。授業が行われるのは平日の午前ですが、火曜日と木曜日の午後には課外活動のようなアクティビティがありました。主に有名な観光地をプログラムに参加している人たちと回ります。この際、交通費は支給され、一緒に回るスタッフとの会話や現地の人たちとの交流も深めることができ、とてもいい経験になりました。また、様々な行き先でスタッフの方が丁寧に説明をして下さるので、歴史や文化、シアトルの日常を知るためには一番良い機会だと感じました。

(2) ワシントン大学での生活体験

ワシントン大学が大規模な学校であることは出発前から認識していましたが、実際に着いてみて、その広大な敷地と施設の数に非常に驚きました。大学内に数多くのバス停があるほどで慣れるまでは、マップを見ないと目的の場所に行くのが大変でした。カフ

エテリアでは様々な種類の食事が食べられますし、少しお金を払えばビリヤードやボーリングもすることが可能です。このように施設が充実しているため、ストレスなく毎日楽しく過ごすことができました。

(3) シアトルの都市の様子

シアトルの街は緑が多く、景観や建物などもきれいでとても魅力的でした。また観光スポットも多くあり毎日違った楽しさを味わう事ができました。なかでも、パイクプレイスマーケットは人気の場所で、いつも活気に満ちていてただ歩いているだけでも楽しくなれるような場所でした。有名なスターバックス1号店もパイクプレイスにあります。

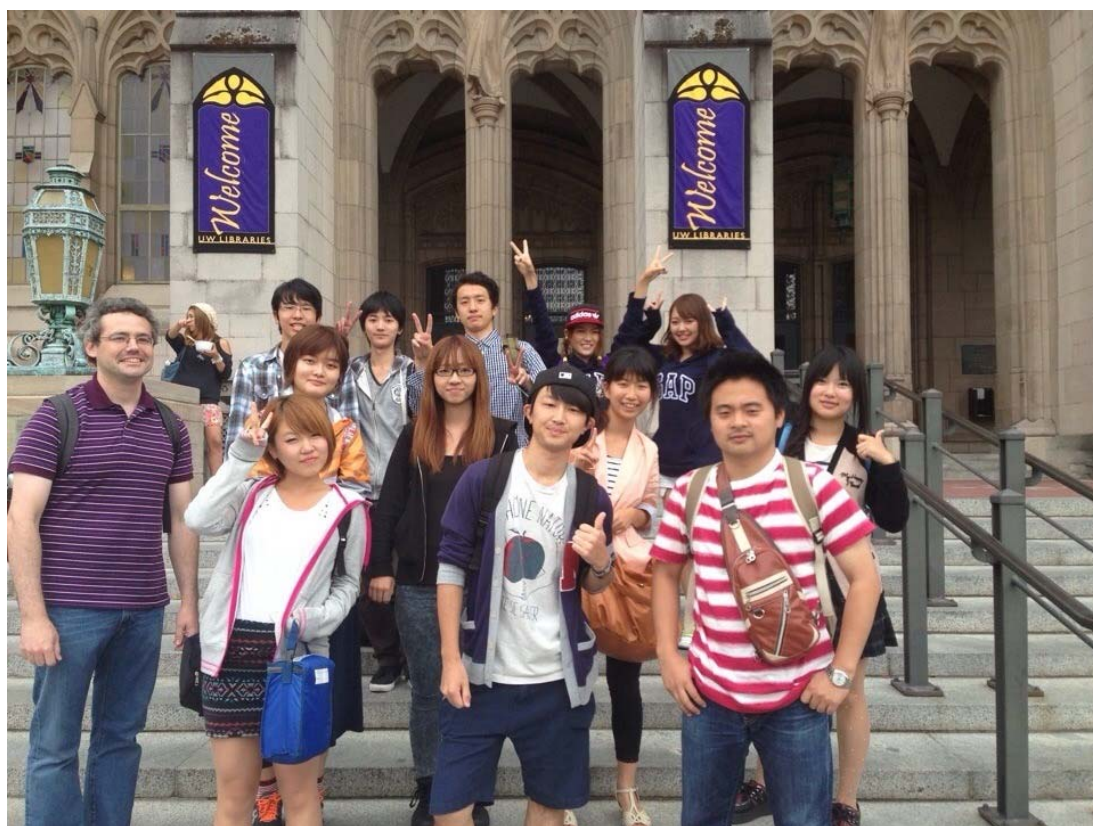
(4) 今回の反省から、次回の参加者に伝えたい注意点

このプログラムに参加する多くの人の移動手段はバスになると思います。料金を現金で払う場合、多く出してもおつりが返ってこないの細かいお金を持たなければならぬため、Orca CardかU-Passの購入をお勧めします。U-Passは乗り放題のカードですが高額であるため、ホームステイ先から大学までの料金や利用する日数などを検討した上で購入して下さい。また、報告書は帰国後の早いうちに作成した方がより良く、次回参加者の役に立つものができると思います。

<大学図書館>



<クラス写真>



<フェリーから見たダウンタウン>